

## 人・農地プランの「実質化」に伴う「話し合いの場」会議結果（一色地区）

日 時：令和3年7月20日（火） 午後3時00分～午後5時00分

場 所：一色防災コミュニティセンター（調理室兼会議室）

参加者：一色地区内で農地を所有又は農業を営んでいる方15名/JA湘南1名

（うち認定農業（酪農）者6名/農業法人（基構到達）1社/農業委員4名）

事務局：都市部産業振興課長/農林水産班長/農林水産班担当/農業委員会事務局担当

（1）人・農地プランの「実質化」に伴う「話し合いの場」の趣旨について  
『農地状況地図図面（現在）及び農地状況地図図面（10年後）』について説明  
『人・農地プラン作成のためのアンケート集計結果』について説明

（2）中心経営体への農地の集約化に関する将来方針（案）について  
地域のコーディネーター（一色地区の農業委員）による進行

### 【協議結果】

- ・一色地区における中心経営体への農地の集約化に関する将来方針案の決定
  - ・一色西部：葛川以西の山麓・山間（西部農道等）周辺の現状後継者がいない農地については、同地区内において耕作を営む認定農業者の営農による維持及び新規就農者への誘致を検討する。  
町道7017号線沿線（南部）周辺の現状後継者がいない一部の農地については、同地区内において耕作を営む認定農業者の営農による維持並びにオリーブ耕作を営む農業法人を中心に農地の利用集積を図る。  
打越川以東の山麓・山間周辺の現状後継者がいない農地については、同地区内において耕作及び酪農を営む認定農業者の営農による維持及び新規就農者への誘致を検討する。  
その他の現状後継者がいる農地については、同地区内において耕作を営む認定農業者及び後継者の営農による維持を図る。
  - ・一色東部：葛川以東の山麓・山間（東部農道等）周辺の現状後継者がいない農地（果樹園地）については、同地区内において耕作を営む認定農業者の営農による維持を図る。  
その他の現状後継者がいる農地については、同地区内において耕作を営む認定農業者及び後継者の営農による維持を図る。

## 【意見等】

- ・アンケート結果からも農地の規模を拡大する意向の方々は、全体の5%程度であるため、地区（集落）内で担い手を求めるのは難しいと思われる。後継者の中には現在は会社勤めをしており、定年後に農業を継いでもらうことを想定している回答も多いと思うが、定年退職の期限が延長されている昨今においては、それまでの間農地を維持していくのも難しくなっている。
- ・西部農道周辺は、農道が広く、道路付けが良いことから、新規就農者にとって就農しやすい環境と言える。新規就農者の就農が比較的多い西部農道周辺の農地を除き、認定農業者による拡大意向が少ない状況においては、後継者による維持をせざるを得ないと思う。
- ・農道の整備や鳥獣被害等の課題により、営農を維持するのも難しい状況にあるので、新規就農者への誘致をするにせよ、後継者による営農を維持するにせよ、課題に対し何らかの対策を講じる必要があると思う。
- ・イノシシによる鳥獣害は、農作物被害だけでなく、農道畦畔等にも及んでおり、その住処も荒廃化した農地だけとは限らず、山林にも多く生息している。里山再生ボランティアの協力を得て、山林の更新を行うことなど検討してほしい。
- ・一色地区には高低差のある山間部の農地が多く、農地を集積できたとしても全部を機械化することは困難であるため、基盤整備等により農地を広く平らにすることが求められるが、最近ではインターネット等を活用し、自ら販路を広げている農業者も増えてきており、小規模であっても農地を上手く活用することで収益を上げられるため、必ずしも大規模な基盤整備は必要ないと思う。
- ・全ての農地が同条件でない限り難しいと思うが、農地の等価交換の検討は利用集積の促進を図る一助になると思う。
- ・農地中間管理機構の活用を促進するためのPRに力を入れ、メリットを分かりやすく周知する等、利用を促進してほしい。
- ・高齢化や後継者の不在に伴い、今後、相続放棄も増えてくることが考えられる。権利放棄する場合にも費用がかかることから、町で引き取ってほしいという声が増えることも考えられる。